

第4課、237-5000に伝えた契約 - エステル

“エステルはモルデカイに返事を送って言った。「行って、スサにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食してください。三日三晩、食べたり飲んだりしないようにしてください。私も私の侍女たちも、同じように断食します。そのようにしたうえで、法令に背くことですが、私は王のところへ参ります。私は、死ななければならないのでしたら死にます。」”(エス4:15-16)

エステル記全体のストーリーと内容は、直接聖書を通して見てください。また、時代的な状況や背景が知りたい方は、インターネットを検索して参照してください。

エステル記は、私たちが正典（キリスト教が信仰の規範（canon/κ α ν ω ν）として定めた神様のみことば）として信じる聖書に含まれています。「神様」という言葉が一度も記録されていませんが、やはり福音（喜びの良い知らせ）の内容が盛り込まれています。あとから、もう一度説明します。

聖書は、堕落、さばき、救い、天国での宴（祝宴）の順番で、恵みというテーマで一貫して解いて説明しています。創世記で堕落した人間が黙示録の新しい天と新しい地に入る過程を漸進的な啓示の形で書いたのが聖書です。創世記からヨシュア記のカナンの地に入るまで、その主題の説明が初歩的に一度終わり、士師記でまた堕落し、第二サムエル記のソロモンが神殿を完成することで、もう一度説明されます。列王記でまた堕落を見せ、エズラ、ネヘミヤで神殿を再建し、エステルで祝宴を開く場面でもう一度終わり、ヨブ記、詩篇、箴言、伝道者の書で、その神殿を完成する知恵者であるイエス・キリストを説明しながら、雅歌で神様とその民たちとの天国での愛を描いて、もう一度終わります。

そしてイザヤ、エレミヤ、哀歌、エゼキエル、ダニエル、ホセア書で再び人間の堕落を見せ、ハガイ、ゼカリヤ書で神殿を完成させ、天国の宴を再び見せ、最後にマラキ書で「あなたたちの力ではできないでしょう?」となって旧約聖書が終わります。そして、マタイの福音書が開き、初めてイエス・キリストを登場させ、これまで影で見せてくださった神様の民の救い主の実体を見せてくださるのです。

このすべての過程の中には、神様の計画とそれを成し遂げる神様の熱心だけが含まれています。人間側からの何かの熱心、覚悟、決断によって神様のみこころが変わるのではなく、すでに定められた神様のみこころが成し遂げられることに人々が用いられているのです。

死の危機に瀕しているユダヤ人がエステルの死の決断によって生き残ったのではなく、ユダヤ人（神の民）を生かされることにエステルが死の決断をするようにされたのです。神様の働きはひとつの誤差もなく成されます。私たちが神様のみ働きをしないからといって成し遂げられないではありません。エス4:14節で、モルデカイがエステルに「もし、あなたがこのようなときに沈黙を守るなら、別のところから助けと救いがユダヤ人のために起るだろう」と言った言葉がそのような意味なのです。ただ、神様が成し遂げられるそのことに、私が用いら

れるようになるなら、「アーメン」と従^{じゅうじゅん}順^{したが}して従^{したが}うのです。

結局、神の民に敵対していたすべての悪の勢力は滅び、すべてのユダヤ人は2日間の祝宴^{しゅくえん}を楽しむようになります。

エステル記 9章 22節

“自分たちの敵からの安息^{あんそく}を得た日、悲^{かな}しみが喜^{よろこ}びに、喪^もが祝いの日^{いわ}に変わった月^ひとして、祝宴^{しゅくえん}と喜^{よろこ}びの日、互^ひいにごちそうを贈^{たが}り交^おわし、貧^{まず}しい人々に贈^{ひとびと}り物^おをする日と定めるためであった。”

これが救いの美^{すく}しい知らせ^{うつく}、福音^しです。

イザヤ書 61章 1～3節

“神である主の霊^{しよ}がわたしの上^{しよ}にある。貧^{まず}しい人に良^{ひと}い知らせ^よを伝^しえるため、心^{つた}の傷^{ころ}ついた者^{きず}を癒^いやすため、主はわたしに油^{しゆ}を注^{あぶら}ぎ、わたしを遣^そわされた。捕^{つか}らわれ人^とには解放^{ひと}を、囚^{かいほう}人^{しゅうじん}には釈放^{しゃくほう}を告^つげ、主の恵^{しゆ}みの年^{めぐ}、われらの神の復讐^{とし}の日^{かみ}を告^{ふくしゅう}げ、すべての嘆^ひき悲^つしむ者^{なげ}を慰^{かな}めるために。シオンの嘆^{なげ}き悲^{かな}しむ者^{もの}たちに、灰^{はい}の代^かわりに頭^{あたま}の飾^{かざ}りを、嘆^{なげ}きの代^かわりに喜^{よろこ}びの油^{あぶら}を、憂^ういの心^{こころ}の代^かわりに賛美^{さんび}の外^{がい}套^{とう}を着^つけさせるために。彼^{かれ}らは、義^ぎの樅^{かし}の木^き、栄光^{えいこう}を現^{あらわ}す、主の植木^{しゆ}と呼ば^{うえ}れる。”

237、5000種^{しゅぞく}族^く（あらゆる国^{くに}、全^{ぜん}世界^{せかい}、地^ちの果^はて）福音化^{ふくいんか}は神様^{かみさま}の計^{けい}画^{かく}の中^{なか}にあります。その中^{なか}の残^{のこ}りの者^{もの}（神^{かみ}の民^{たみ}）を神様^{かみさま}がみ^さな探^{さが}して回^{かい}復^{ふく}させま^すす。モルデカイとエステルが用^{もち}いられたように、私^{わたし}と皆^{みな}さんがそのように用^{もち}いられることを祈^{いの}ります。